

オキナワトゲネズミ・ケナガネズミの 域外保全を目的とした基礎研究

特定非営利活動法人どうぶつたちの病院 沖縄 渡部大介

【活動の目的】

オキナワトゲネズミやケナガネズミは沖縄島北部の「やんばる」と呼ばれる森林域にのみ生息しています。やんばるの森では、かつてトゲネズミやケナガネズミは絶滅したのでは、と言われるほど個体数が減少していましたが、現在は外来種対策等によって少しずつ生息域を拡大してきています。しかしながらいまだに交通事故や感染症等の脅威にさらされており、絶滅を回避できたとはいえない状況にあります。こうした状況を克服する一つの手段として飼育下繁殖がありますが、野生下での生態が未解明のままでは成功は困難です。オキナワトゲネズミ・ケナガネズミともに野生下での生態は少しずつ明らかにされつつありますが、未だに解明されていない部分が多くあります。そこでやんばるの森林域で多く活動する当団体はこれら希少ネズミの生息域外保全の一助とするための活動に取り組みました。

【活動内容と成果】（成果報告会で報告した項目のみ詳細を記載しています）

①オキナワトゲネズミ体重測定の試み

野生オキナワトゲネズミの自動体重モニタリングシステムを製作し、野生個体の体重測定に成功しました。また、その年生まれた幼獣の定期的な体重測定にも成功しています。これらの体重データは域外保全の際の個体管理に重要な指標となります。

②オキナワトゲネズミの活動時間の季節変化調査

3年にわたる長期間の自動撮影カメラ調査によって、オキナワトゲネズミは季節によって活動時間が昼夜逆転することを再確認しました。また、活動時間のシフトする時期は年によって異なっており、周辺環境（日長・気温・餌資源量など）が影響する可能性が示唆されました。

③オキナワトゲネズミの行動調査

④オキナワトゲネズミの好適生息環境調査

⑤オキナワトゲネズミの繁殖に関する調査

オキナワトゲネズミの野生下での繁殖状況について調査するため、巣と思われる箇所に自動撮影カメラを設置し、観察しました。1地点で3頭の幼獣と親個体を確認し、巣の出入り口の一つと推測されるポイントを発見しました。これらのことから野生下でのオキナワトゲネズミにおける大まかな繁殖時期の推定ができるようになりました。

⑥飼育下オキナワトゲネズミの行動調査

⑦ケナガネズミの分布調査

⑧在来小型哺乳類の飼育下繁殖技術開発

⑨トゲネズミモデル動物による効率的繁殖方法の検討

⑩オキナワトゲネズミ・ケナガネズミについての普及啓発

県内の動物園におけるイベントや傷病個体放獣の際に地元小学生等を対象に普及啓発活動にも取り組みました。また、アンケート調査を実施し、オキナワトゲネズミ・ケナガネズミの認知度を調べたところ、回答者の2～3割程度しか認知しておらず、今後の普及啓発の重要性を再認識しました。

【まとめ・今後の展望】

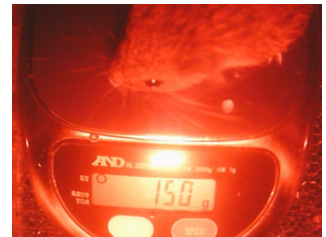
本活動で野生のオキナワトゲネズミにおいて体重モニタリングに成功しました。今後は別の集団についても調査するため、新たなポイントの選定を計画しています。そしてオキナワトゲネズミの活動時間の季節変化は年によって異なることが分かりました。継続調査による更なるデータの蓄積や別集団の活動時刻の調査も検討していきたいと考えています。また、繁殖巣は発見できましたが、それ以降の観察には成功していないことからもう一つの調査手段である人工巣箱設置による繁殖行動観察を成功させたいと思います。最後にオキナワトゲネズミ・ケナガネズミの認知度は生息域のある沖縄県内でも低いものでした。継続した普及啓発を行い、このやんばるの森にのみすむ貴重なネズミ達を守る意識を高めていきたいと思っています。



オキナワトゲネズミ
(*Tokudaia muenninki*)



ケナガネズミ
(*Diplothrix legata*)



体重計測システムで計測中の
オキナワトゲネズミ



巣穴調査カメラで撮影に
成功したオキナワトゲネズミ
親子